



経営の概要

就農地域：北海道 芽室町

就農方法：新規参入

営農開始：2016年

営農形態：露地・施設園芸

(ミニトマトを主に約40品目、100種類以上)

➤ 経営耕地面積：80a (うちハウス3棟)

➤ 農業従事者：代表、妻の2名

(取材日：令和7年10月23日)

✓ 廣田農園 廣田一公さん、由美さんのこと

代表の一公さんは北海道函館市出身で、陸上自衛官として勤務。退官後、妻の由美さんとともに農業を始めました。

由美さんは北海道札幌市出身で、元小学校教員。東日本大震災をきっかけに「自分で何かを生み出す仕事したい」と農業を志し教壇を降りました。

一公さんの転勤で帯広市に転居し、夫婦で農業の勉強会などに参加するうちに、由美さんの食と農業への熱意に押され、一公さんも就農を決意。芽室町の農家 山上美樹彦さんのもとで1年間研修した後、2016年に50aの畑で「廣田農園」を開業しました。2018年には直売所「畑の駅」やオンラインショップを開設し、現在は、無農薬・無化学肥料で約30～40品目の野菜を栽培しています。

由美さんは「今は農業が生きがいになっている」と話されました。

✓ 就農のきっかけ

由美さんは、東日本大震災をきっかけに今までの仕事や暮らし、食を見つめ直すようになりました。できるだけ依存を減らす生き方、食と農の大切さに気づき農業に強く惹かれるようになりました。

一公さんは、先に農業の勉強を始めた由美さんとともに就農を決意。夫婦で研修を受け就農に至りました。お二人が「親方」と慕う、一から農業を教えてくれた研修先の山上美樹彦さんとの出会いも二人の背中を押しました。

✓ 農業への思い

由美さんがアレルギー体質で化学物質にも反応しやすいため、化学的なものは使わずに農作物を育てるこだわりははずせません。大規模に食を支える慣行農業も必要ですが、無農薬、無化学肥料の食品が必要な人もいるとの思いから自然共生型農業に取り組むことにしました。

お二人は「夫婦だけでの作業は大変ですが、『どこまで手をかけるかの割り切りも大切』としながら、楽しさとやりがいを感じています。販売を通して生まれたお客様との信頼関係を大切に、これからも廣田農園を続けていきたい。今年は念願だった畑も購入できたし、来年は就農10年の節目なので営農の見直しと『農泊』にもチャレンジしたいと思っています。農業は『人を幸せにする仕事』。食べ物を通じて心の豊かさを届けたいという思いがあり、収入だけでなく『人のためになること』に価値を感じています。」と話されました。



雨の畑
(廣田農園提供)



直売所「畑の駅」店内

✓ 新規就農を目指すみなさんへ 廣田さんからエール

(一公さん) あまり考えすぎずに、まず現場に飛び込んでみてほしいです。自分たちは直売から始め10年かけて設備を整えましたが、営農スタイルも様々ありますよ。

(由美さん) 「経験ゼロでも農業はできる」の気持ちがあれば始められます。家族が幸せかどうかを続ける判断基準にしてみてください。それと「親方」との相性も重要ですね。

✓ 地域の応援団から一言

10年間本当によく頑張りました。地縁がない十勝で農業へ飛び込んだお二人には苦労が多かったと思いますが、今では自分たちの営農方針でしっかりと生活できている様子。夢が叶えられたのなら私もうれしいです。これからもお二人で頑張ってください。(山上美樹彦さん)



廣田農園の野菜
(廣田農園提供)